

調査の結果から見られる特徴

教科に関する調査

複数の資料から必要な情報を読み取って、問題を解くことに課題が見られる。

- ・ 小学校社会の問題において、複数の資料を読み取って、社会的事象の意味を考える問題の正答率が49.8%であった。（㊦35P）
- ・ 算数4の問題が選択式、記述式に関わらず（1）～（5）すべての問題で無解答率が10%を上回った。会話文の中から必要な情報の読み取りが十分できなかったことや、情報の読み取りに時間を要し、解答の時間が足りなかったことが考えられる。（㊦39P）

既有的知識を活用して、適切な方法を選んだり、理由を説明したりすることに課題が見られる。

- ・ 中学校理科の問題において、既有的知識を活用して金属の種類を見分ける問題の正答率が50.1%であった。（㊦45P）
- ・ 数学の問題において、相対度数を用いることのよさを理解し、説明する問題の正答率が22.4%で、無解答率は31.3%であった。（㊦41P）

質問紙調査

「主体的な学び」の実現に課題が見られる。

- ・「◇28/28 授業に自分の目標をもって取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校が 72.0%、中学校が 54.3% である。（📊6P、62P）

授業での I C T 活用が進んでいる。

- ・「◇33/33 I C T 機器を週 3 回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、R 4 年度より小学校が 18pt、中学校が 19pt 増加している。（📊7P、63P）

家庭での時間の使い方に変化が見られる。

- ・「◇17/17、18/18 テレビゲームやスマートフォン等のメディアの利用の時間」が増加している。（📊27P、61P）
- ・「◇39/40、46/47 勉強や読書の時間」が減少している。
（📊24P、65P、66P）

「自分にはよいところがある」と考えている児童生徒の割合が増えている。

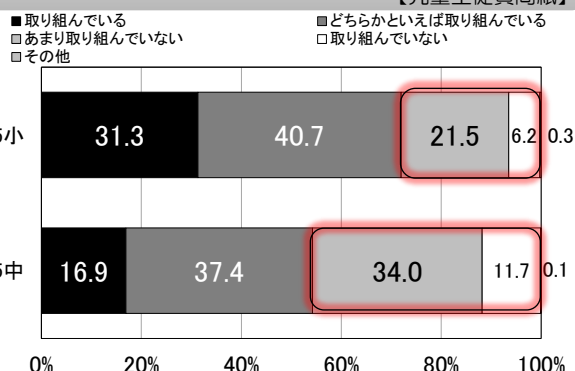
- ・「◇6/6 自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校が R 4 年度より、中学校が R 2 年度以降増加している。（📊25P、59P）

児童生徒主体の学びへ

「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む学習」は進んでいますか。

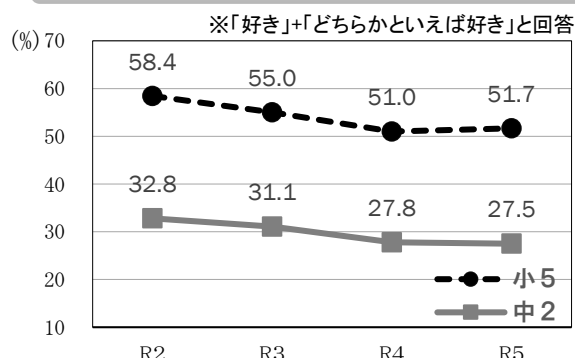
◇28/28 授業に、自分の目標（めあて・ねらい）をもって取り組んでいますか。

【児童生徒質問紙】



◇22/22 勉強は好きですか。

【児童生徒質問紙】



「授業に、自分の目標をもって取り組んでいない」と否定的な回答をしている児童生徒が小学校では約 30%、中学校では約 45%いることが分かります。児童生徒一人一人が自分の目標や目的をもって学習に取り組むことができるように、児童生徒の発言や考えを生かして課題設定することが必要です。自分で、目標や目的をもって学習に取り組むことは、勉強の面白さに気付くきっかけになるかもしれません。

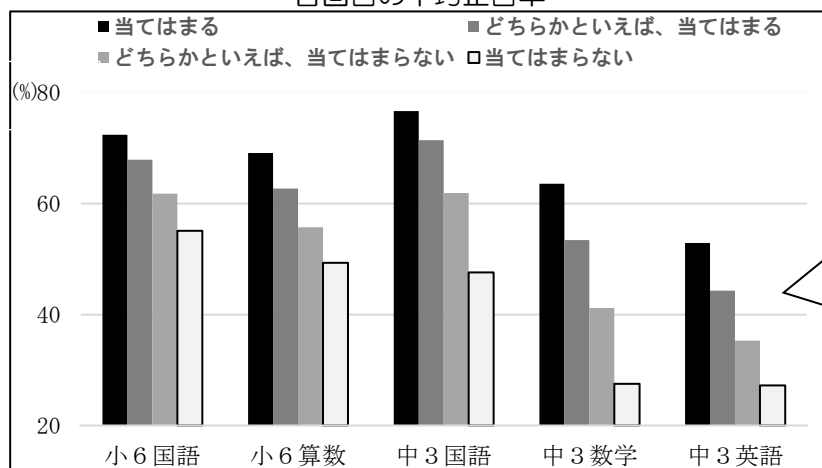
<参考>

令和5年度 全国学力・学習状況調査

◇35/37 5年生まで（1.2年生の時）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【児童生徒質問紙】

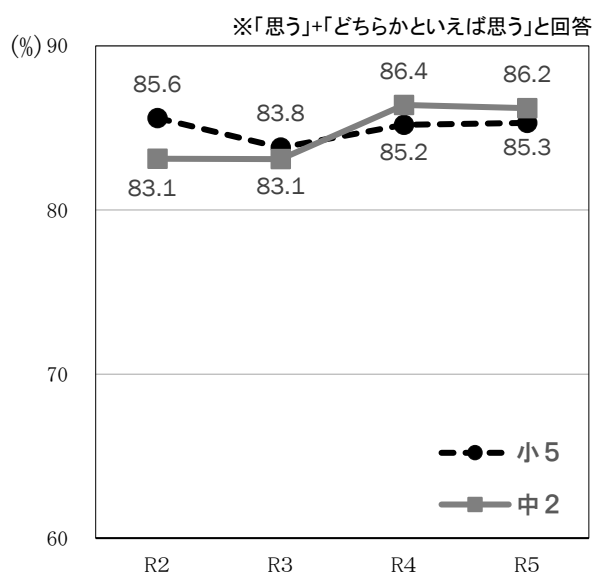
各回答の平均正答率



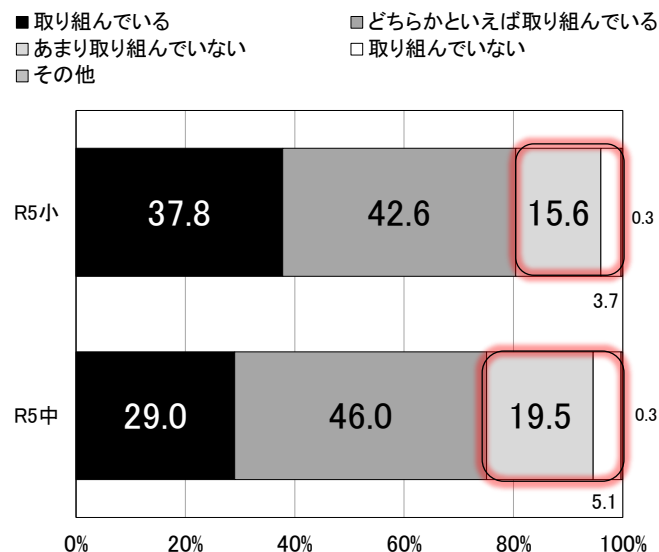
小・中学校ともに、「自分で考え、自分から取り組む」と回答しているほど、平均正答率が高いことが分かります。

相手意識や目的意識を明確にした言語活動

◇31/31 普通の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。【児童生徒質問紙】



◇32/32 普通の授業では、友達と話し合うとき、目的をもって取り組んでいますか。【児童生徒質問紙】



小中学校ともに、85%を超える児童生徒が「話し合う活動をよく行っている」と肯定的に回答しています。しかし、「目的をもって取り組んでいない」と回答している児童生徒がいることが分かります。

児童生徒自らが考え、自ら取り組む学習を行うことで、課題解決に向けて、話し合いにも必然性が生まれるはずです。話し合いが、活動だけにならないようにしなければなりません。

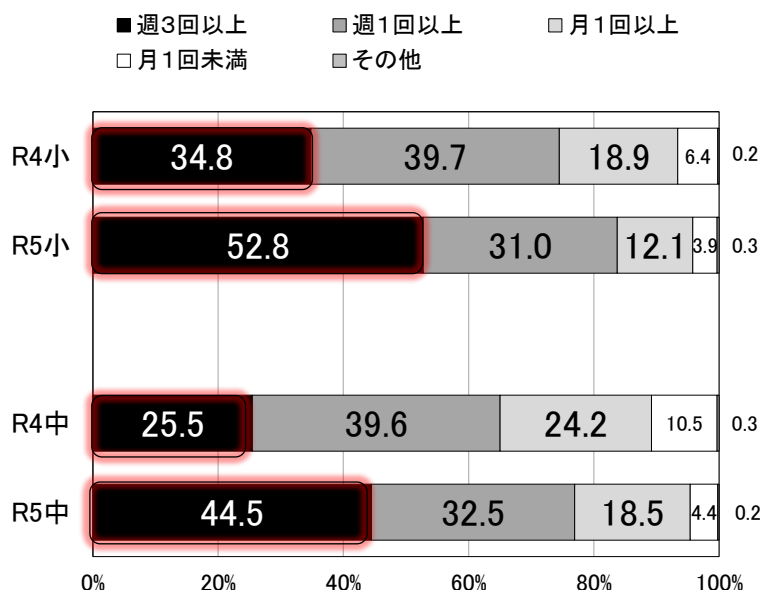
目的をもった言語活動に ICT を活用

「授業で週3回以上 ICT を使用する」と回答した児童生徒が R4 年度より増加しました。ICT は、本調査でも課題であった「複数の資料から必要な情報を選択したり、関連付けたりして考えること」に関して、有効に働きます。

ICT は、複数の情報を提示したり、比較したりするときには力を発揮します。例えば、児童生徒は、ICT の一覧表示機能で表示された学級全員の考えを知ること、自ら交流相手を選び、目的をもって交流することができるでしょう。また、資料の作成や、資料を使った説明にも ICT を活用することができます。

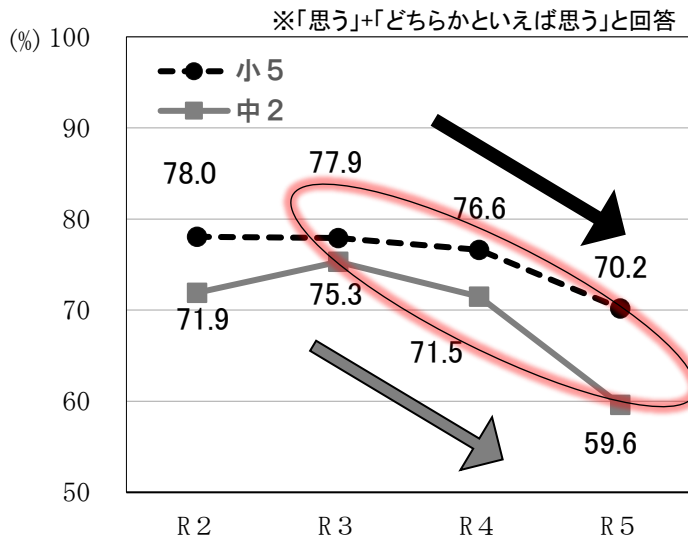
このように、ICT も活用しながら、相手意識や目的意識を大切にしたい言語活動を行いましょう。

◇33/33 普通の授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用していますか。【児童生徒質問紙】



児童生徒主体の学びを支える「振り返り」

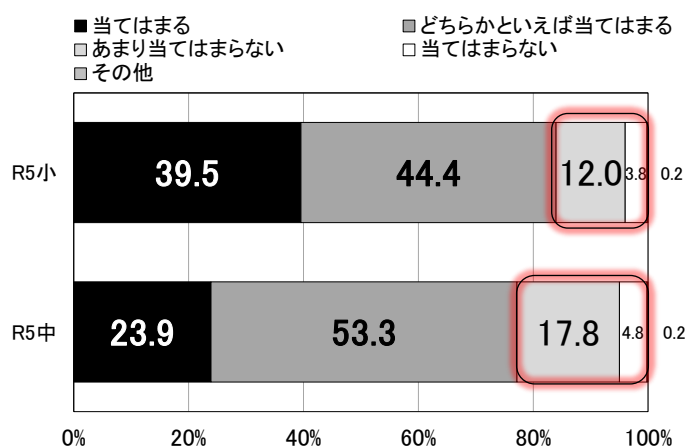
◇29/29 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。
【児童生徒質問紙】



毎時間、授業の最後に、多くの時間をとって学習内容を振り返ることは難しいですが、短時間でも視点をもって児童生徒が自ら振り返ることが大切です。

何を、どのように学び、その学びにどのような意味があるのかを捉える「振り返り」は、問題解決の「見通し」にもつながり、児童生徒主体の学びに欠かせません。

◇21/21 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。
【児童生徒質問紙】



児童生徒主体の学びにおいては、児童生徒自身が学習方法等を選択したり、決定したりできるようにすることが大切です。また、試行錯誤できる時間を確保し、学習過程を振り返って、学び方や学習時間が自分にできていることを実感できるようにしていくとよいでしょう。

「児童生徒主体の学び」のためのチェックポイント

- ☐ 児童生徒の発言や考えを生かして課題を設定している
- ☐ 児童生徒が必要な時に目的をもって話し合えるようにしている
- ☐ 児童生徒が、課題解決に向けて、ICT 機器を使いたいときに使える環境にしている
- ☐ 児童生徒が自ら振り返る活動を取り入れている
- ☐ 児童生徒が選択したり、自己決定したりする場面を設定している

チェック!